

次郎次郎踊り



次郎次郎踊りは、射勝（いすぐる）神社の「スグロドン祭り」という豊作祈願の神事の後に奉納される芸能である。射勝神社は、祭り用の田んぼを所有し、草道の5部落が当番制で祭りを行っていた。

当番の部落は、祭りの準備、執行、祭りの後の直会まで総出で取り組んでいた。

現在は草道郷土芸能保存会が継承し、毎年3月の第1日曜日に実施している。

踊りは、テチヨ（父親）、牛が2人、鼻取り（2番テチヨ）、モガオシ、嫁女の6人が登場する。

まず、子どもたちが害虫に見立てられた見物人を追い払うしぐさをする。次にテチヨが「トッゴロ」という火のついた木を持って、畔ややぶを焼き払い見物人を追い回す。特にあばれ牛とのやりとりは迫力のあるシーンで、荒々しい無言の即興劇である。

最後は、身ごもったテチヨの嫁女が種籾や落花生をまく。この種籾を持ち帰り苗床に蒔くと豊作になると言われている。

草道郷土芸能保存会では「次郎次郎踊り」の他「兵六踊り」も継承している。

【奉納・披露】

日程：毎年3月第1日曜日

場所：射勝神社（水引町草道上）